

# 会 議 録

令和2年6月1日調製

審議会等名	令和元年度 第2回三条市文化財保護審議会		
公開の別	全部公開		
開催日時	令和2年3月26日(木) 午前10時から11時まで		
開催場所	三条市中央公民館 大集会室	傍聴者	なし
		報道機関	なし
出席者	審議会委員 荒木会長、渡辺副会長、石澤委員、岩田委員、岡村委員、熊倉委員、佐藤委員、関委員、長谷川委員、松岡委員、六原委員		
	事務局 恋塚生涯学習課長、笹倉課長補佐、田村係長、勝山主査、西川主任		
欠席者	高橋委員、平山委員		
議題	(1) 三条市指定天然記念物万葉の藤の樹勢について (2) 『三条市文化遺産リスト』について		
会議内容			
	(1) 三条市指定天然記念物万葉の藤の樹勢について		
荒木会長	事務局より説明願いたい。		
事務局	<p>これまでの経緯、昨年8月に行った樹勢診断結果については、令和元年度第1回文化財保護審議会に報告したとおりである。樹勢診断結果で示された樹勢回復方法は、ア、保水性を重視し堅穴式土壌改良を実施する。イ、幹を創設するため大枝と幹小の誘引を行い新たな幹とし、地面に落ちている弦をエノキに絡ませ新たな樹幹とする。ウ、倒伏更新個体の樹勢回復のため枯死した枝の剪定、防腐剤の塗布による樹形を整形する。エ、土壌乾燥防止のためマルチング資材を散布する。オ、藤の木の成長によるエノキの共倒れを防ぐための支柱を設置する。カ、土壌改良部分の踏み固め防止のため区画エリアを拡大し、立ち入り禁止柵を設置するの以上6つであった。これにより市指定天然記念物万葉の藤の樹勢回復処置を行うことで前回の審議会承認をいただいた。令和元年度は優先度の高いア～エを実施し、令和2年1月に作業は完了した。</p> <p>令和2年度はオ、支柱の設置、カ、区画エリアの拡大を行い、さらに万葉の藤の樹勢回復に努めていきたい。</p>		
荒木会長	乾燥防止のためのマルチング資材とはどのようなものか。		
事務局	土壌改良の堅穴の表面に散布する土の保水性を保つための保湿剤であ		

	る。
関委員	幹の創設ということで樹幹を新たに作ることを行ったが、順調に育っているのか。
事務局	上の方に向かって2本の弦が新しく生育している。時間が経つにつれて新たな樹幹になってくれればと思っている。
関委員	藤の木が絡んでいるエノキがあまりに大きくて、藤の木の生育を害しているのではないか。遠くから見るとエノキの方が目立って、藤の木の樹勢が年々衰えているように思える。
事務局	エノキが太く新しい弦はからみつかないので、まずは支柱を利用して大きくし、徐々にエノキに絡みついていくことになると思う。エノキの枝よりも藤の弦の方が伸びている。そのため、新しい弦が伸びきれなくなり地上を這うような形になっている。また、藤の弦がどんどん伸びて、エノキが耐えられなくなり、倒れてしまう心配もある。そのため、支柱をたてて弦が伸びれるようにし樹勢を回復するように取組んでいきたい。
荒木会長	最悪の場合、枯死した時はどうなるのか。例えば、今から藤の木の苗を育てておくようなことをする必要はないのか。
事務局	藤の木はいくつもの弦が長い年月をかけて絡み合って樹形を形成している。現在はその中でも太い幹が枯れそうになっている。周りにいくつもの新しい弦が育っているので、範囲を拡大した柵をし、その柵の中で生育させながら新たに幹を絡ませるようにし、従来の万葉の藤と一体の樹形となっていくように樹勢回復させていきたいと考えている。
荒木会長	樹勢が回復するのを願っている。過去に西明寺の大モミジが枯死して新潟県指定文化財の解除となった。植物はしっかりと人間が面倒をみなければだめな部分がある。
関委員	柵の中には藤棚のようなものを形作るのか。
事務局	柵を設置するが、藤の幹が自然な形となるように支柱を立てるので、藤棚は設置しない。
荒木会長	ほかに質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(2) 『三条市文化遺産リスト』について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	市内に所在する文化財の適切な保護を図る基礎資料として作成している『三条市文化遺産リスト』に、佐藤委員から新たな追加候補物件の調査票の提出があった。これについては、佐藤委員から説明をお願いしたい。
佐藤委員	諸橋轍次博士書「色紙」一点である。『三南地方の歴史 大面村誌』の「題字と序文」に掲載されていたものだが、長らく所蔵不明となっていた。平成30年6月に大面小学校で再発見したものである。大面小学校にあった理由は、聞き取りにより2説あるが、いずれも確かではない。

	<p>落款は「止幹」とう諸橋轍次の代表的な号。詩は『論語』の「先進篇 第十一」を引用している。揮毫時期は落款と大面村誌の発行年から昭和 41 年 4 月頃。諸橋 83 歳。色紙の寸法は横 24.4 センチ×縦 27.1 センチである。</p> <p>今回の紙本「色紙」は、謙虚、且つ真摯な姿勢と、諸橋博士の本家筋の従兄である諸橋田龍との往時を懐かしむ気分が強く滲み出ている作品である。諸橋博士の人となりを研究する上で、史料的にも貴重な色紙で、親戚関係、郷土愛、依頼された状況、書かれた時期などが明確に確認できるものとして大変貴重な史料である</p>
荒木会長	大面村誌色紙解説に「丙午初夏止軒」と書かれているのはどうかということか。
佐藤委員	諸橋博士の目を経ないうちに印刷されてしまったのではないかと思う。
荒木会長	いい資料を見つけていただいた。近年学校も児童が少なくなり、空き教室を利用し記念室ができているところがある。価値がわからず、展示品の状況が悪いこともある。
岡村委員	この色紙の大面小学校への伝来については、村誌を執筆された小松徳一先生から村誌刊行後に大面小学校にやることにして公民館長をされた岩崎さんに頼んで大面小学校にとどけてもらってあることをお聞きした。
渡辺副会長	諸橋家へ嫁に行かれた山王の方が音楽の先生であった。
荒木会長	大面小学校にあった理由は聞き取りによる 2 説ではないということになるようだ。
岩田委員	小学校にその地にゆかりがあつたり、人物とのかかわりがあつたりして隠れた名品があることがある。どうしてここに伝来するのか全くわからない作品が多い。作品のバックヤードを知ること、作品を身近に感じられる。
熊倉委員	学校では資料などが残されていないことが多く、作品の価値や経緯がわからないものがある。学校の職員は転出してしまうので、物は残っても、由来はいつしかわからなくなってしまう。今回のように外から調査してもらわないと価値が見いだせないことを学校当事者として痛感した。
荒木会長	ある学校に行った時に、教頭先生からどなたの書かわからないものがあるので見て欲しいと頼まれた。見たところ諸橋博士のもので驚いたことがあった。説明文を作って欲しいと頼まれ、これがあれば後世にもわかってもらえるようにと思って作成したことがあった。
六原委員	諸橋博士がお書きになったお墓が尾崎のお寺の墓地にある。三条信用金庫の金子家の墓で、「金子墓」という字を諸橋轍次博士が書かれたと聞いている。立派な大きな墓である。
荒木会長	ほかに質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
荒木会長	諸橋轍次博士書「色紙」一点について、三条市文化遺産リストに追加掲

	載してもよいか。
	(異議なし)
荒木会長	これで閉会とする。

以上